

これからの試験研究の動向

明治の初めから本格的に取り組まれてきた北海道農業は、厳しい自然条件に挑戦し、克服してきた農民の逞しい精神と先人達の技術導入や開発などの努力によって着実に発展してきました。北海道農業は府県とは異なり、専業の大規模経営を中心として水稲、畑作物、野菜、畜産等の幅広い分野でコストの低い効率的な生産を行い、現在、我が国最大の食料供給基地として重要な役割りを果しています。また食品産業や肥料、農薬、農業機械、運搬業など広範な関連産業とつながりを持ち、本道の経済発展にも大きく貢献しています。

しかしながら、主要農作物の生産抑制および価格の低迷、労働力不足等の困難な経営状況に加えて貿易自由化の進行や需給動向に対応した良質、安価で安全な農産物の安定供給など北海道農業を取巻く環境は、ますます厳しさを増大してきています。

このような状況をふまえ、「現在そして将来、道立農業試験場はどんな試験研究に取り組むべきか」について農業試験場、農政部連携のもとに1年間の検討を行い、平成3年2月に「道立農業試験場研究基本計画」を策定しました。この基本計画は、平成3年度から平成9年度までの7ヵ年における農業試験場の重点課題と、各部門毎の研究推進の方向、研究推進体制の基本的考え方、組織体制整備の方向、各場の性格分担を明示したものです。この計画の中で最も重要な部分を占める農業技術ワンランクアップのための重点研究課題は次のとおりです。

- ①基幹作物の品質・食味・加工適性の向上、低コスト安定生産のための品種開発や栽培技術確立
- ②園芸作物の振興のための野菜・花きなどの特色ある園芸作物の開発と安定生産技術確立
- ③農産物の需要拡大や高付加価値化、特産品づくりのための流通・加工・貯蔵などの技術確立
- ④自然と調和した安全な農産物づくりと環境資源の保全・活用のための農薬への依存をより軽減した生産技術や農用資源の有効活用に関する試験
- ⑤バイオテクノロジー技術を活用した新育種素材の作出、育種手法の開発、病害虫の診断、生物防除技術や受精卵移植、生体機能増強技術などの開発試験
- ⑥遺伝資源収集、保存と評価に関する試験
- ⑦道産農産物の市場拡大と農村地域活性化のための調査・研究
- ⑧情報システムを活用した作物栽培、家畜飼養、病害虫診断などの技術開発試験

各分野の研究推進方向として主な課題を示すと、稲作では食味水準を「ササニシキ」、
「コシヒカリ」に置いた高度良食味米の品種開発および安く安全な米を供給するための
低農薬、低コスト安定生産技術開発、畑作では小麦、大豆、小豆、ばれいしょおよび
てん菜の高品質、加工適性向上のための品種開発や生産技術の確立、園芸ではたまねぎ
やメロンなどの夏秋期生産を中心とした移出向作物の生産技術と道産特産作物の品種改
良や、かすみそう、カーネーション、スターチスなどの主要花きの栽培技術の高度化、
畜産では乳牛、肉用牛、豚などの高能力家畜の作出・改良と飼養技術および優良な飼料
作物品種の開発と低コスト生産技術などがあげられます。

上述の試験研究実施に当たっての効率化のために各研究分野が連携して取り組むとと
もに国立農試、大学、団体、民間等とも積極的な協力関係を保ちながら試験研究の総合
化や高度化をめざすことになっています。

中央農業試験場企画情報室長

三分一 敬